

科目区分：人文・社会科学

授業科目名	言語と芸術（人間と音楽）				学期	曜日	校時
英語名	Language and Art “Humanity and Music”						
担当 教官名	福井昭史	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期 月曜日	1校時
授業のねらい・内容・方法							
音楽が人間にとってどのような意味をもっているかを考察するとともに、先人が生み出した偉大な遺産である芸術としての音楽に親しみ、その特質を感じ取る。主として、世界の民族音楽や日本の伝統音楽を取り上げ、それらの視聴や聴取を通して学習を深める。							
テキスト、教材等							
授業に当たって受講生に直接指示する。テキスト及び参考図書として日本の伝統音楽に関する書籍等をその都度紹介する。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	定期試験又はレポート（40%）及び日常の学習状況（30%）に加えて授業への参加状況（30%）を考慮して評価する。						
授業計画							
<p>第1回 人は音楽をどう聴いているか（その1） 聴取と音楽的な感受</p> <p>第2回 人は音楽をどう聴いているか（その2） 音楽の背景の理解と聴取の深化</p> <p>第3回 音楽の起源と人々の生活 生活に根付いた多様な民族音楽</p> <p>第4回 社会生活のあり方と音楽の伝承 バリ島の今と昔で芸能はどのように変化したか</p> <p>第5回 音楽の伝承 1300年の伝統をもつ雅楽とその伝承</p> <p>第6回 音楽の伝播と派生 日本列島全域に広がるハイヤ節系の民謡</p> <p>第7回 日本の音楽（その1） 古代社会と宮廷音楽</p> <p>第8回 日本の音楽（その2） 宗教と音楽 仏教音楽</p> <p>第9回 日本の音楽（その3） 宗教と音楽 キリスト教の伝来</p> <p>第10回 日本の音楽（その4） 近世の娯楽音楽 語り物の系譜</p> <p>第11回 日本の音楽（その5） 近世の娯楽音楽 江戸のヒーロー、歌舞伎十八番</p> <p>第12回 日本の音楽（その6） 当道制度と盲人音楽家の音楽</p> <p>第13回 日本の音楽（その7） 現代に生きる民俗芸能</p> <p>第14回 現代人の心と病を癒す音楽 音楽療法</p> <p>第15回 定期試験</p> <p>（予習・復習にかんする指示） 本講義では、予習の必要はなく授業での視聴や感受が最も重要であることを理解してほしい。授業後に、題材として取り上げた音楽についてテキストや参考資料で復習する必要がある。</p>							